

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600081		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家 静市(1号館)		
所在地	京都市左京区静市市原町743-4		
自己評価作成日	平成30年12月6日	評価結果市町村受理日	平成31年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JirvosyoCd=2690600081-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成31年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ボランティアの方に来て頂き、レクリエーションをする機会が多い事。周りに自然が多く、平屋の為日差しがよく当たり施設の雰囲気が明るい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所はコミュニケーションを大切に、利用者が自宅で居るような生活の場にするために職員同士が話し合いの機会を多く持ち、利用者の声を常に常に考えた支援に努め、今年の初詣は車椅子でもお参りできる場所を探すなど要望に応えるように関わっています。敷地内には畑や散歩ができるスペースがあり、ベンチを置いて外気浴をしたり、畑では野菜を育て自由に出入りができるなど、庭を有効活用することで閉塞感のない暮らしを提供しています。運営推進会議では様々な意見やアドバイスをもらったり、地域のボランティアの紹介も多く、レクリエーション活動の充実に繋がっています。また、小学校で行われる認知症サポーター講座の協力や事業所で行われる秋祭りに地域の方を招待し利用者との交流の機会を持ち地域に根差した事業所となるよう日々取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	午前中に、経営理念・行動指針の読み合わせを1回行うようにしています。理念を共有することにより、よりよい利用者本位のサービスを提供できるように努めています。	事業所理念は玄関の掲示板に掲示し、申し送りや会議の中でも法人理念と事業所理念についての説明や確認、振り返る機会を作っています。また、日々の支援の中では利用者が穏やかで自分らしく暮らせるように話し合い理念に基づいた判断が出来ているかを意識しながら利用者に関わり実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りに来て頂いたり、ボランティアとして来て頂いたりしています。地域の会議にも参加しています。地域との交流をさらに深めたいと思います。	地域の情報は町内会や民生委員からや運営推進会議時に得られています。事業所で行われた秋祭りには地域の方の参加もあり利用者と一緒に歌を歌ったり盆踊りを楽しむ等交流しています。また、社協や民生委員との関係も良く地域のボランティアの紹介があり活動に繋がっています。小学校で行われる認知症サポーター養成講座の協力も行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での徘徊ネットワーク会議を通じて、地域の方々と一緒に勉強させて頂いています。地域で行われる認知症サポーター養成講座に参加し協力させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議構成員の方々から意見や助言を頂き、サービスの向上に努めています。	運営推進会議は家族や老人福祉員、社会福祉協議会職員や地域包括支援センター職員、民生委員の参加を得て2カ月に1度開催されています。利用者の状況や活動内容、ヒヤリハットや経過や対策を含め細かく記載した資料を基に事故報告も行い意見交換をしています。また、ボランティアや地域の様々な情報が得られています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修や連絡会に参加できるように努めています。相談などがあれば随時・報告・連絡をしています。	運営推進会議の議事録や事故報告等を直接出向き提出しています。その際に具体的な問題点や制度についての疑問点を相談しアドバイスをうけています。行政からの研修案内もあり、必要に応じて参加しています。また、地域ケア会議にも出席して情報の交換を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関ドアに関しては、施設前の道路の交通量が多いこともあり施錠しています。ユニット入口のドアについては開錠を基本としています。人員配置の薄くなる時間帯(夜間・早朝)は安全確保のため施錠しています。また身体拘束研修の理解の浸透に努めています。	法人主催の身体拘束に関する研修は年に2回あり参加した職員による伝達研修や資料の回覧、事例検討等により学び、身体拘束に繋がらない取り組みを行っています。不適切な言動が見られた場合は個別に注意をしています。玄関は施錠していますが、テラスやユニット間は自由に行き来しており、外に出たい様子が見られた場合は職員が付き添ったり見守りながら菜園や中庭で外気浴をしたり散歩に出かけるなど、拘束感を感じないよう支援しています。	

グループホーム たのしい家 静市(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修に参加し、虐待についての理解を深めるとともに防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に参加し、理解を深めています。現在、後見人がついておられる利用者もいますので、個別での相談は随時させて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には運営の方針や金銭面などについて十分に説明をし納得のうえで契約に至るように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望に関しては連絡ノートやユニット会議で職員間で共有するとともに運営推進会議に家族様に参加、発言を頂き外部への発信にも努めています。	家族の意見は面会時や計画の更新時に利用者の様子を伝え意見や要望を聞き、往診や血液検査の結果の報告や利用者の日々の様子がわかる写真を掲示したり職員の写真もユニットの入り口に貼るなど得られた意見は都度反映するよう努めています。利用者の意見は都度聞き、行きたい場所などの要望は行事等に取り入れています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場だけでなく、随時聞く機会を設けています。ユニットの事に関しては、ユニットリーダーを中心とし、ユニット職員で提案、改善していくように指導しています。	毎月行われるユニット会議や全体会議の他、日々の業務内でも職員の意見や提案を聞いています。業務内容やシフト、レクリエーションについてリーダーを中心に話し合い職員間で検討をして見直しを行っています。また、職員が調べたドックセラピーの導入も実践しています。管理者は年に2回個々の目標について面談を行い思いや意見を聞いています。また、悩みを抱えている職員には随時面談を行いより良い職場環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課があり、給与に反映しています。また、ありがとうほめカードを活用してお互いのいいところを見つけ各自がやりがいを持ち明るく仕事ができる職場になるよう取り組みを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員はすべて、本社での3日間の研修を受けたのち業務に従事しています。また、会社内での研修に積極的に参加できるように情報の発信、環境整備に努めています。		

グループホーム たのしい家 静市(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内ではありますが、エリア内での研修や訪問等を通して気づきや学びの交流を行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントの情報をスタッフ間で共有し、利用者様のニーズの把握、信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に現状や不安に思っている事柄、入居後の対応への希望などを細かく伺い、サービス利用者に関する不安をなくすことに努めています。ご家族の何気ない一言を拾いながら今後もよりよい関係作りに努めたいと思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズ及びご本人の病歴やご家族様の経済的負担などを考慮し、どのようなサービスが妥当かを話し合い決定しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行うなどで自信を持って頂き、レクリエーションなどを通して馴染みの関係が築けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の来所時にはご本人の近況などを報告し必要に応じてサービス担当者会議以外でも話し合う機会を持っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力でお泊りや外出をして頂き、また兄弟やお孫様等からの電話や手紙のやり取り等の支援を行っています。	家族以外にも友人や教え子の面会があり、居室やリビングに案内して、ゆっくり過ごしてもらえるように支援しています。利用者の馴染みの場所も把握し教会への同行など個別外出の支援をしています。また、家族の協力の下自宅に戻ったり、墓参りに出かける方もいます。その際には準備などの支援を行っています。遠方に住む兄弟との手紙のやり取りに関しても支援を行い、これまでの関係継続に努めています。	

グループホーム たのしい家 静市(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で関係性を把握し食事やレクリエーションなどのグループ分けなどに反映しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供をするなど、相談や支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向、本人目線を重視するように努めています。困難な場合も表情動きから意向を汲み取るように努めています。	入居前の面談では利用者の生活歴や一日の過ごし方、趣味や特技、心身の状況等の情報を聞き取ったり今まで関わっていた担当者より情報を得て、アセスメントを行い、本人や家族の意向や思いを把握しています。入居後は日々の関わりを通して利用者の表情や言葉、仕草を観察し問題点や気づきがあればその都度話し合いを行い職員間で確認して情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人以外でもご家族様、病院関係者からも情報の提供を受けることがあります。集まった情報は職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや会議、現場に出向くことで現状把握に努めています。個別ケアも意識しています。心身の状態については往診や訪問看護と連携をとり情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人ご家族様の意向とともに職員から課題となる案件を聞き必要に応じてカンファレンスを行い介護計画を作成しています。	本人や家族の思い、アセスメントを基に介護計画を作成し3か月毎にモニタリングや評価を行い、利用者の状況に変化がなければ、6か月毎に再アセスメントを行いサービス担当者会議を開催して本人や家族、医師や薬剤師、看護師、職員やケアマネジャーの参加の下意見を改めて聞いています。参加できないときは書面で意見を聞き計画に反映しています。職員は個々の介護計画やサービス内容を確認して計画に沿った記録がなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートを作成し情報共有しています。またユニット会議にて話し合えるようにしています。		

グループホーム たのしい家 静市(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の生活や心身状況に応じて、必要な支援が日々発生します。変化に対して職員が早く気づき情報を共有し、その中で必要と思われる買い物や、外出、受診などを検討し可能な限り対応するように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協を中心としたボランティアさん、近隣の学校行事に参加させて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人、ご家族様に提携医の説明を行っています。月2回の往診があり24時間対応が可能。ただし持病の都合で今までの主治医を希望される時には情報を頂き、医師や看護師と連携をとるようにしています。	入居時にかかりつけ医について説明を行い今までのかかりつけ医を継続している方もいます。受診の際には家族が同行し書面や口頭で情報提供し受診後は家族より結果を聞き、場合によっては職員が同行することもあります。かかりつけ医による往診は月に2回あり、緊急時は24時間連絡が取れる体制が整っています。歯科の往診もあり希望者は口腔ケアや治療を受け、毎月の便りで往診結果も報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から気になることについては、情報シートに記入しておき定期訪問の際に活用しています。また主治医からの指示もその際に伝達を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、ご家族様と連携をとり現状の把握、情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、ご家族様にご説明させて頂いています。また、実際に看取りになる場合においては主治医より説明を行って頂き、再度意向の確認後、方向性を決定しています。	入居時に看取りに関する指針を基に説明し事業所で出来る事と出来ないことを説明しています。重度になった場合にはかかりつけ医の判断の下職員も含め家族に状況の説明を行い今後の方針を決めています。事業所では話し合いを重ね看取りの場所については家族に選んでもらい、協力を得ながら面会回数を増やしてもらったり、希望があれば宿泊も可能です。看取りについての研修会も開催しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修に参加し、会議等にて伝達し実践できるように指導しています。		

グループホーム たのしい家 静市(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し定期的に消防訓練を行っています。	年に2回昼と夜を想定して消防署の立会いの下通報から初期消火、避難誘導を利用者も参加して訓練を行っています。水害時の対策は早期に法人内の事業所への避難やハザードマップの確認を行っています。備蓄は食料など3日分の準備と停電に備えて電池や懐中電灯も確保しています。	避難訓練の際には地域の方への協力の声かけや地域の防災訓練に参加する等、地域との協力体制に向け働きかけられては如何でしょうか
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の情報を収集し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけを行っています。	接遇や尊厳、プライバシーや権利擁護に関する研修は法人主催で行っています。利用者には基本的には敬語で丁寧な言葉遣いを行うように指導しています。不適切な対応があれば注意を行い尊厳を忘れないように指導を行っています。排泄時の誘導も小声で行い同性介助を希望する場合には出来るだけ要望に応じています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の尊重、選択の自由を心掛け、日々のケアに取り組んでいます。自己決定が出来にくい方には選択出来るような方法を取り入れ、思いを汲み取れるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の意向の確認をしながら、入浴・レクリエーションの内容を決定しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理美容のほか、爪切り等身だしなみに配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には口腔体操をして頂いています。季節や行事等は別メニューにて食事を楽しんでもらっています。	食事は業者より献立と食材が届きますが、利用者の状況に合わせてユニット毎に調理方法や食材を変えています。個々に合わせ食器の種類や形態を考え弁当箱に盛り付けることでむせることなく出来るだけ自分で食べられる様に工夫しています。利用者も野菜の下ごしらえや味付け、食器洗い、後片付け等出来る事に携わってもらっています。また、畑で育てた野菜が食卓に上がり季節感を味わうこともあります。またおやつを手作りしたり個別外出に出かけ、食事を楽しむ機会も設けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量ともに接種の記録を残し、把握することに努めています。		

グループホーム たのしい家 静市(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の生活習慣に沿って対応しています。訪問歯科医、歯科衛生士と連携し必要な方には訪問治療、口腔ケアを受けて頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の様子や表情、時間の間隔等を考慮し誘導を試してみたりしています。	トイレでの排泄を基本とし、個々の排泄チェックを行い時間やサイン、表情を確認しながら、その人に合わせて誘導を行っています。失禁が多い方はその原因やケアの方法、排泄用具について話し合いを重ね改善に向かって行った事例や入居時にはおむつを使用していた方が今では紙パンツで過ごせるようになる等自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳は毎日飲んで頂いています。また体操も毎朝行っています。それでも排便コントロールが難しい方には主治医と相談し内服薬を処方して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯や曜日は最低限度を予定していますが、その日の入居者様の状態や、希望によって柔軟な対応をしています。一人の方が入浴を終わられた後は浴室の掃除やお湯の入れ替えを行い入浴剤も入れ気持ちよく入って頂いています。	入浴は週に2回利用者の希望を聞いたり体調に合わせて対応しています。入浴を拒む方には、無理に勧めることなくタイミングと声かけを工夫して脱衣室へ案内しています。一人ずつ湯を入れ替え浴槽の掃除と消毒を行い、季節のゆず湯や入浴剤を使いゆっくりと入浴ができる様に工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は特に設定しておらず個々のニーズに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を別冊にして職員の誰もが見て確認できるようにしています。また薬が変更になった場合は往診の記録票とは別に申し送りノートに記入し確認サインを得ることで情報の伝達を行っています。提携薬剤師とも連携をとり情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙、ドライブ、音楽鑑賞、個々のニーズにできるだけ合わせるように心がけています。		

グループホーム たのしい家 静市(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々のレクリエーションとしては買い物や散歩に出かけています。ご家族様の協力で外出される方もおられます。	天候と体調に合わせて少人数でドライブや散歩に出かけたり、敷地が広く中庭の菜園の野菜作りを見学したり庭の散歩やテラスで外気浴をするなど外気に触れる機会を作っています。個別の外出や近隣の団地の中にあるカフェに出かけています。季節の花見や紅葉狩りの他、今年の初詣では利用者の歩行状況に合わせ2か所選りお参りが出来る様に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力や希望に応じておこずかいを自己管理して頂き使う機会を持てるようにしています。自動販売機にてジュースを買ったり、職員と一緒にお店で買い物される方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話や、手紙のやり取りをされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	色調を抑えなるべく落ち着いた空間になるように配慮しています。広角に見渡せるリビングの窓からは季節の草木が見渡せられるようにテーブルの配置も考慮しています。	共用空間は毎日清掃し清潔を保てるよう心掛け、定期的な換気や温湿度に留意し清潔な環境を保てるように心がけて利用者の体感を確認しながら室温の調整を行っています。ユニットには季節毎に利用者と一緒に作った作品や行事の写真が飾られています。ユニット間は開放しており、自由に行き来することができ、随所にソファを置き好きな場所でゆっくりと過ごせるよう工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分にソファをおき個人個人が好きなように利用されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様が入居時にご本人とあった室内環境になるように調度品などをご用意して下さっています。ご本人様が使用しやすいように置き換えすることもあります。	入居時に馴染みのものを持ってきてもらうよう伝え自宅で使用していたテーブルや椅子、テレビや家族の写真、大切な仏壇を持参し、家族と相談しながら配置しています。趣味の編み物の道具を傍に置いたり、中にはランの鉢植えを育てている方もいます。定期的に居室の清掃と換気を行い快適で過ごしやすい居室となるよう支援しています。自宅での生活習慣を尊重し、ベッドか布団を選択してもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように床に模様がついていたり、居室前の名札の下には自身の作品・季節のものなどを飾っています。		